

時事新報

東京

明治十七年八月廿七日 水曜日 第七百四十八號 日曜日休刊 定價三錢

公報

○陸軍總司令部第三拾八號 府 縣
 別紙之通太政官ヨリ御達相成候條爲此旨相達候事
 明治十七年八月二十六日 陸軍卿 西郷從道
 (別紙)
 舊陸軍總司令部ヲ移設シ扶助料ヲ給與シタル者改正思
 給令發布候ニ於テ其權利轉移若シハ停止及其他ノ事故生シ
 ントキハ總テ改正令ニ據リ處分スヘシ此旨相達候事
 明治十七年八月十八日 太政大臣 三條實美

時事新報

佛清事件感觸論

佛清ノ事件ハ今日既ニ破裂ニ及ビテ今日マデノ有様ハ既ニ
 讀者ノ知ル所ナレバ唯今後ノ成行如何ナル可キヤ、戰爭大
 ナル可キヤ小ナル可キヤ、長ク持續ス可キヤ速ニ落着ス可
 キヤ、又兩國何レノ利ナル可キヤ云々ノ問題ハ誰レノ心頭
 ニモ浮フ所ニシテ我輩モ讀者ト共ニ之ヲ推考セント欲スレ
 ル今日ハ以テ明日ヲ測ル可ラズ況ンヤ今日ノ事ハ一切軍機
 ニ關スルモノニシテ其機變瞬間ニ動ク可キガ故ニ鬼神ニ非
 ザルヨリ以外ハ之ヲ前知スルノ明アル可ラズ然リト雖モ方
 今世ト都部ノ別ナク口ヲ開ケバ必ズ此事件ヲ語ラザルモノ
 ナシ、之ヲ語レバ必ズ今日ニシテ明日ヲ問ハザルモノナシ、
 又漫ニ之ニ答ルモノモ少ナカラス固ヨリ臆測推量ノ言ノ
 ナレハ人心ノ傾向スル所無言ニ附スルヲ得ザルモノナラン
 我輩モ亦其問答中ノ人ナレバ即チ愛ニ一説ヲ記シテ讀者ノ
 高評ヲ乞ハントス
 抑モ郎松ノ事變ニ就テ佛蘭西ノ申條ハ本年五月十一日天津
 ニ於テ佛蘭西ノ司令官、フルニエー、ト支那ノ大臣李鴻章ト取
 替ハシタル條約ニ從ヒ東京電在ノ清兵ハ六月六日同十六日
 ノ兩日ニ退去スル等ナリ然レモ同日二十日迄ニ至リテモ尙
 去ラザルガ故ニ之ヲ促シタルニ清兵之ヲ背セズ確戰ニ
 及テ佛人ノ損害ヲ被リタルヲナレバ佛人ハ支那政府ノ違約ニ
 在リトテ損害賠償ノ金額ヲ申出ダラシメテ支那政府ニ
 於テハ全ク意見ヲ異ニシ天津ノ條約ハ確定條約ニシテ確定
 條約ニ非ズ云々ハ、斯クノ條約ハ三個月後ニ確定ス可ク
 トノ條約ナレバ其確定條約ノ第二條ニ直ニ東京電在ノ清兵
 チ呼還スト記シアルモ目下直ニト云フ意味ニ非ズ然レモ佛
 蘭西ヨリ理不盡ニ其退去ヲ促シテ事變ヲ生シタルモノナル
 ガ故ニ若シ實金トナレバ我方ヨリ佛人向テ要求ス可キ等ナ
 レハ清廷ニテ察スル所、是レハ本家佛蘭西政府ノ意ニ非ズ
 其兵士出陣先キノ調達ナラント認定スルガ故ニ寛仁大度ナ
 ル清國政府ハ實金ナドノ事ヲ云ハズ且佛蘭西公使ハ清兵退
 去ノ日限約東ナド、申セドモ此方ニ於テハ會テ之ヲ知ラズ
 及、フルニエーガ海軍軍令ヲ列強列國了リ、去ルニ臨テ其旨
 ヲ佛蘭西ニ申出ダレバ海軍軍令ヨリ之ニ應シ可キニ非ズ
 レハ東方ヨリ書面ヲ呈呈ハシタル事モテテ尙念ノ爲メ海軍
 軍令ヨリ書面ヲ呈呈ハシタル事モテテ尙念ノ爲メ海軍
 軍令ヨリ書面ヲ呈呈ハシタル事モテテ尙念ノ爲メ海軍

ナント申張リ尙其大體精神ハ詳ニ記録シテ李氏ノ答辨書ヲモ
 播ヘ在北京諸外國公使ニ贈リケ且ツ清國ハ飽クマデモ
 平和ヲ主トシ貿易ノ場メ又交際ノ爲メ忍フ可ラザルヲモ忍
 フモノナレバ各國政府ニ於テモ必ズ之ヲ許スルコトナラン斯
 クマデニシテモ佛人ガ飽クヲ知ラズイヨクノ乱ヲ好テ和
 ナ破ルホハ清廷ニ於テモ最早止ムヲ得ズ兵力ニ訴ルノ外ナ
 シト雖モ畢竟其本ヲ奪レバ佛人ノ好乱ニ原因スルモノナレ
 バ或ハ兵亂ノヲメニ各國人民ノ身体私有ニ損害ヲ及ホスト
 アルモ責任スル者ハ佛ニシテ清ニ非ズ云々ノ旨ヲ照會シ
 又本月二十日曾國荃ガ「パテント」ト談判調ハズシテ上
 海ヲ去ルルコトモ各國公使ニ書テ贈リ清廷ハ今日ノ事件ニ付
 キ一應平和ヲ主トシテ速ニ米國公使ノ仲裁ヲ依頼スルマデ
 ニ盡力シテ佛蘭西ノ意素ヨリ乱ヲ執テ動かズ談判ノ未
 決中妄ニ我台獨ノ鴉片港ニ砲撃シテ無辜ノ人民ヲ殺シ又東
 京ノ方ニ於テハ海防ヨリ進軍スル等其乱暴無狀ナル唯此
 レ好ムモノナレバ清廷ニ於テ平和ヲ維持スルノ方便モ最早
 盡キ果テ此上ハ唯兵力ニ訴ルノ外ナシト雖モ畢竟コソ乱ヲ
 佛ノ好ム所ニシテ佛ノ企テタル所ノモノナルガ故ニ在清各
 國人民ニ於テ或ハ之ガ爲メ損害ヲ被ルコトアルモ其責任ス
 ルモノハ佛蘭西政府ナリ云々ノ意ヲ述ヘテリト云フ

佛清事件

○電信不通 昨夜より暴風故にや大坂以西
 じかり又一説に、長崎上海間の海底電線も断絶
 ぶ此説は長崎より電信さへ通せざる事あれば
 兎も角右の次第にて上海其他より電報一切受
 會を失ひ我々が臨時の猶豫なく待受くる佛清事
 象以來の景況を知る能はず甚だ遺憾の事ども不
 電信一旦閉通するに及んでい如何なる新報を
 日より方々殊に速に開通せん事を祈るあり
 ○支那各地に警備 佛清既に開戦しるるに就き
 戰地たる福建省は申すに及ばぬ福建以南沿海の
 邊くる人民の狼狽と敵に備ふる政府の準備と上
 動あり今支那より最近通信より因りて各地景況
 さん
 ○通州 通州は北京を距ると四里餘の地おして
 下北京及び當地にて一萬五千の兵卒を擁すれど
 佛軍對するは不安心なりとて有るなる油勇を
 將を湖南省に遣はしたり○天津 是より先兎招
 運送船は大砲軍糧糧仗水雷火船を天津より太沽
 地方より天津兵勇に人籍するもの運送に増し今
 萬と號せり此地平常の水陸練勇騎歩兵二萬五
 千西洋形軍艦三艘、支那形大小兵艦九十艘を備
 へはクルンゾ。アムストロン及び洋銃の鉄砲多、
 ルツツ。アムストロンカッタリンの諸砲を購置セ
 ントンを用ゆる由なり○芝罘 此地には砲台一
 り又登州府水城の隣岸に一座の砲台ありて石を
 けり兵營八箇ありて住民は會市街の郭内に在
 の開戦前は佛蘭西軍艦の此處に在るも昨夜電氣
 照らしたれば住民は之を破兆と爲し其逃散大分
 ○九江 此地に之英佛米、獨、露等の領事館あり
 兵營三個あり住民は狼狽一方ならず上海廣東等
 今此來て百方貨金の取立盡力せり○温州
 近來物價非常に騰貴し阿片一個二十兩以上あり
 右之支那沿海各地景況の一斑にして此外上海、
 様は既に本報を掲載せし所もあり且つ大同小異
 く之を省き福州の事情に就て尙少しく聞か得る
 其八要を記さん福州の南都温嶺の地にして夏
 則百餘度より嚴冬にても三十度下ならず暑中
 候は風多くして土人殆んど降雪を知らず又平常
 水陸練勇騎歩兵共計八千人人あして西洋形軍
 支那形兵艦は八十餘艘あり且つ此地の砲台は城
 二箇處に在りて城中には支那軍艦の鉄砲を用ひ
 ムストロン砲を備へ軍艦にはクルンゾ。アムスト
 トン等の砲を備へ小銃は多くレロントン。ス
 用ゆる新式砲は六座ありて其四は閩江の兩岸

佛清事件